

山桜の里 戸赤

満開背景に準備



おもてなしのメインは
白でもちつき



早朝から光を待つカメラマン

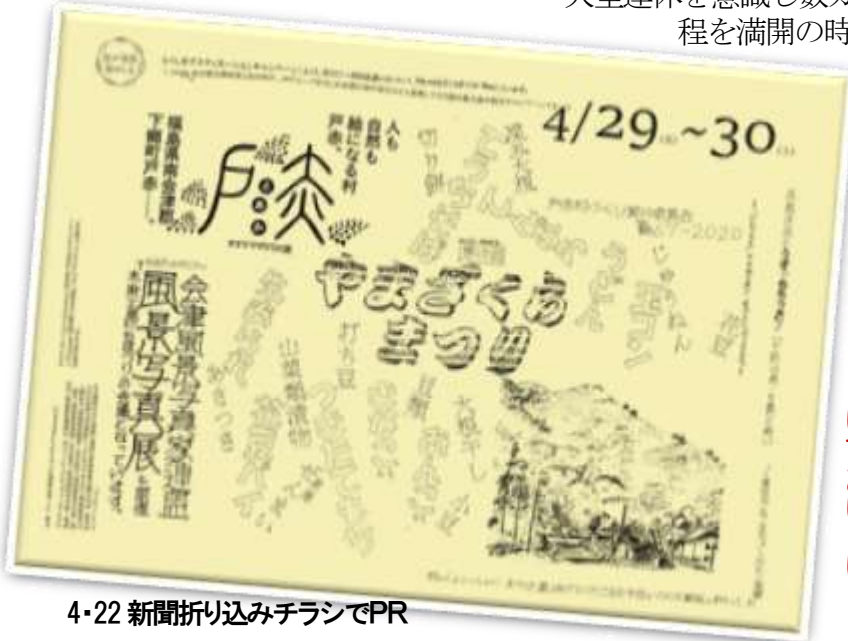


雪囲いはずして学校オープン



満開の山桜を背景に売店用のテント準備作業4・24

大型連休を意識し数カ月前から観光宣伝するため、山桜祭りの日程を満開の時期に合わせるのは至難の業です。今年は祭りの日より数日前に満開となった。



4・22 新聞折り込みチラシでPR

アンケートの自由意見を紹介します。
 ① 前回の続きでスマートフォンマークeting道の駅めぐり。② ④ 花豆に似せたパイの形、見た目（照り・色）にしたらもっと良くなると思います。⑤ 花豆煮をチョココーティングにした商品はどうでしょうか？。⑥ サイズの小さいものがあってもよいと思う。⑦ パイもおおいしく完成度が高い。⑧ もう少し小さくして1個100円くらいだと買ひやすい。⑨ お得感があつて良い。⑩ 耕作放棄地活用に連作障害を克服していただきたい。⑪ 地元産を利用し良かったと思う。他の町でも販売してはどうでしょうか。⑫ 中に花豆がまるまる入っていておいしい。

【木の学習No.66】木地椀の製作を主にしていた職人を木地屋というのに対して、家具や日用雑器を作る職人を挽物師と区別していたようであるが、挽物師のほうは年代がずっと新しい。これが本格的に始まるのが大正中期で、地元の山林地主の集まりである山林会が、雑木を加工することによって山村の振興をはかったことによる。田島町には大正七年ごろ、福島県と山林会の援助により木工伝習所が開設され、宮城県遠刈田温泉から木地職人を講師として招いた。伝習所の講習は筆立て、輪ぬきだるまなど比較的やさしいものからはじめ、徐々にむずかしい物も挽けるよう指導した。この講習に参加した人が八人ほどあり、専業に木地業に携わる者が一人、そのほか農業のかたわら副業としている者が数人あった。これらの職人が使用していたロクロは足踏みロクロで、足でペダルを踏みながらロクロを廻し製品を挽いた。原理は手挽きロクロと同じであるが、一人でロクロを廻し木地挽きができるのが大きな利点であった。足踏みロクロは遠刈田の新地に伝えられたのが明治十八年で、東京本所の木地師田代寅之助という人が仙台から新地にやってきて指導したと伝えられている。新地の木地屋もそれ以前は手引きロクロが使われていたが、足踏みが普及するにつれ製品を作る能率が三倍に上がったという。このロクロが田島に導入されたわけである。手引きロクロと大きく違う点は、製品の内側と外側を挽くとき人間が移動するのではなく、製品をひっくり返して挽くことである。また手前に引きつけて挽く姿勢をとるから、カンナやその他の刃物の柄は短い。（会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より）（続く）

平成28年度戸赤区総会

区長に星隆雄さん



3月20日戸赤区総会、区費19戸、村外居住協力費6戸の予算で出発



お茶のみ有難
「営業中」の旗が出ない日はやっぱり寂しいと、村の人が集まってくる(木地工房)

平成二十八年度からの新しい区長に星隆雄さんが選ばれました。平成二十二年四月一日から三期六年歴任した渡部利男さんからバトンタッチされました。副区長室井春雄、会計渡部義文(再)、生産組合長渡部利男、保健委員副区長兼務、保健補導員室井静江、JA総代小椋由典(再)となりました。事業計画には桜祭りへの協力、山桜学校利用促進の原案に木地工房と炭焼き施設の利用促進が加えられました。今年にはNTTドコモ携帯電話の中継局が設置されることが報告されました。設置場所は校庭の集会所入り口付近で、赤土、小屋までは電波が届かないと思われまます。山桜学校の運営は指定管理料がないと運営できないため町へ要望することになりました。四月十三日この件で新旧区長、副区長が役場に

出向き町長に説明し、検討していただくことにしました。



2倍くらい道路が広がった

川が変わって道路が良くなる

井戸沢橋橋脚の基礎床掘中



渡部ミサヲさん

れきのひとコマ

ちょっといっしょ
【11・24温泉保養のとき】渡部利男さん撮影



(ストーリー性のある村づくりのために)[No.34] これらの石器は生産には直接関係ないもので、その形状から用途が推測できないものばかりであり、これらの遺物から縄文人の精神文化を探ることは難しい。… 下郷町栗林遺跡の獣形把手は…土器の波状口縁部の上端に手を広げた状態で土器の内部を覗き込むように張付けられており、中部地方にも類例が多い。… 物資の交易黒曜石の産地推定結果から 縄文時代の人々が採集・狩猟・漁撈を生活の基盤としていたが、他の地域との交流があったことは、南倉沢遺跡などで出土する常世式の土器片に遠い海岸地方で採れる貝殻の文様があることから知ることができる。また装飾品として貴重であった硬玉(こうぎょく)は、糸魚川周辺でしか産出しないが、会津地方では会津坂下町牛沢遺跡や猪苗代町桜川遺跡・同町法正尻遺跡・西会津町上小屋A遺跡からは硬玉製の玉珠などの装身具が出土しているので、これらが遠く北陸地方から運ばれたことが判明している。会津地方から発見される石器類の素材には頁岩(けつがん)など身近に手に入る素材が用いられているが、南会津の場合には比較的黒曜石製品の比率が高いようである。(「下郷町史-第7巻通史編(発行・下郷町)」より出典(続く))